

平成27年 6月 定例会（第2回）
- 06月15日 - 一般質問—04号

○橋詰昌児議長 市政に対する一般質問を行います。

10番 大野保司議員。

市長、教育長、消防長に対する4件の質問事項について発言を許します(拍手)

〔10番 大野保司議員登壇〕

◆10番（大野保司議員） おはようございます。議長のお許しを得ましたので、さきに通告いたしました4項目数問につきまして一般質問させていただきます。

まず、越谷市における自転車対策のうち、越谷駅東口における駐輪対策について伺います。本件については、平成24年9月議会において既に一般質問しているところです。その際、越谷駅東口では、駐輪対策が混乱している状況であり、対策を促す趣旨で質問をしたところ、「自転車利用者に対し、公共空間利用のモラルとマナーを高めるための啓発に努めるとともに、鉄道事業者やテナント事業者等と連携協力を図り、効率的な放置自転車対策を講じてまいります」とのことでした。その後、約3年が経過しましたが、越谷駅東口駅前広場では、常時、ピーク時ですが、300台から400台の自転車がとめられています。そのうち200台は、公開空地等の民有地ですが、それ以外は市の管理する駅前広場にあり、「越谷市自転車等の駐輪秩序に関する条例」の対象となります。そのような状況下で駅前事業者の方々も自転車等誘導員の皆さんも、駐輪対策で日々悪戦苦闘している状況であります。

そんな折、越谷ツインシティ管理組合では、A棟の敷地内にスタンド型駐輪施設を設置する方向で検討し、関係機関と調整したと伺っています。最終的には、消防活動空地进行確保するため、約130台程度の規模で6月中の設置を目指し、現在工事中であります。しかしながら、とめられている自転車の数に対し、設置される駐輪施設の数半数以下であり、今後も不適正な駐輪が続くと想定されます。ついては、駐輪施設の設置の経過及び今後の駐輪対策について、市長及び消防長の答弁をお願いいたします。

次に、地域医療のうち順天堂大学附属病院が浦和美園駅周辺に開設されることに伴う越谷市及び市立病院への影響について伺います。越谷市における地域医療については、3次救急病院、獨協医科大学越谷病院及びせんげん台にある順天堂越谷病院におのおの200ベッドの増床が埼玉県に認められ、超高齢化社会に向けた取り組みが着実に進んでおります。獨協医科大学越谷病院については、隣接する郵政宿舎用地を越谷市の協力もあって用地買収し、そこに病棟を新設し、周産期母子センターや小児救急医療センターが設置されるなど、県内でもトップレベルの施設が整備される予定です。これらは、医療、介護、福祉の充実を主張する高橋市長や獨協医科大学本部を視察した公明党市議団の皆さんなど、執行部、議会が一体となった取り組みの成果として積極的に行動された方々への敬意を改めて率直に表したいと

思います。また、順天堂大学越谷病院でも、今から47年前の昭和43年に精神医学研究所の附属機関として設置された経緯を踏まえ、認知症対策などを行う精神内科の機能の充実が図られる予定です。

この獨協医科大学や順天堂大学との連携により越谷市の地域医療は大分進んだと感じていました。しかし、順天堂大学との関係についていえば、新聞報道によれば、埼玉県の医療審議会は、3月19日に新たな病院の整備計画として、順天堂大学から提出された事業案を採択した。これによって浦和美園駅周辺に一般病棟800床の病院が、2018年着工、2020年完成を目指し整備されることになる。また、大学附属病院と同時に大学院と看護学部も併設されるということです。上田知事も3月末には正式に順天堂大学の事業案を採択したということです。順天堂大学といえば、越谷市においては順天堂大学越谷病院を設置しているとともに、昭和51年に市立病院を開設したとき以来の医師派遣の大学です。

一方、この浦和美園に設置される新たな順天堂大学病院と越谷市立病院は、七、八キロの距離にあり、完成すれば市立病院に勤務している順天堂大学出身の医師が引き抜かれるのではないかと、また当然異動することになるだろうなど、医師不足の中、市民の中からさまざまな臆測が私のところに伝わってまいります。最悪の場合、市立病院の医療体制に重大な影響を及ぼすことも考えられます。つきましては、越谷市の医療体制への影響、及び市立病院の運営にどのような影響が考えられるのか、市長のお考えを伺います。

また、今までの越谷市と順天堂大学との長年の関係を考えれば、さいたま市への大学附属病院の建設に当たっては、当然市長に何らかの説明や報告があるべきだと思いますが、その当然あるべき説明や報告が順天堂大学からあったのか、市長に伺います。

次に、誇りを持てる越谷を築くことに関して、小中学校の運動会・体育祭における越谷らしさの表現について伺います。春は市内小中学校の運動会・体育祭の時期であり、5月中旬から6月上旬にかけて市内多くの小中学校で運動会・体育祭が行われています。各校とも児童生徒と先生方を中心に、ご家庭、地域とのきずなが深まるとともに、これからの1年の学校、学級経営にいいスタートが切れたのではないのでしょうか。

さて、運動会・体育祭といえば、リレーなど競走種目とダンスなどの表現種目により、運動能力における競争と協力が各校独自に示されるものだと思います。また、その運動会・体育祭を保護者、地域に公開することで、学校、ひいては越谷市の教育の姿勢を市民に伝える重要なイベントとなっていると認識しております。そのうちダンスなどの表現種目については、運動会・体育祭の春開催に伴い、準備期間が短いこともあって、各学年ごとの定例化が進み、よさこいソーラン節や花笠音頭などが多くの学校で取り入れられていると伺っています。

一方で、日本3大阿波踊りとうたって、年間70万人の人出があるとも言われる阿波踊りについては、市内の学校で取り入れられているという話を聞いたことがありません。伝統芸能や運動能力という点では好ましいとは思いますが、せっかく越谷に住んでいながら、他の地域の伝統芸能を定例化して行うことに寂しさを感じるなどの声をご家庭や地域の方から伺うことがふえてきました。このため、一方で市内の小中学校の運動会・体育祭で越谷音頭を取り入れている学校もふえているようです。私は、誇りを持てる越谷を築くには、越谷固有のよいものを守り、育てることが重要と考えており、これまでもシラコバトやコシガヤホシクサの保護や教育での活用などを訴えてきたところです。この運動会・体育祭における表現についても越谷固有のものを取り入れることが重要ではないでしょうか。越谷で育つ子供たちには、他の地域の伝統芸能もよいのですが、まず越谷の歴史と伝統を感じさせる表現運動を取り入れるべきだと考えます。このため越谷の夏まつりで老若男女が踊れる越谷音頭を運動会・体育祭に取り入れることは大変よいと考えます。については、越谷市内の小中学校の運動会・体育祭でよさこいソーラン節や花笠音頭、阿波踊りなど、他地域の伝統芸能がどのぐらい取り入れられているのか。また、越谷音頭はどの程度取り組まれているのか、その現状を踏まえ、その現状と市の考えについて教育長に伺います。

次に、越谷市における観光振興について、これまでの取り組みと今後の方向について伺います。政府は、2020年の東京オリンピックを契機に、年間2,000万人の海外からの観光客を見込むなど、観光産業を国の重要施策と位置づけ、アベノミクスの成功例として一層強く取り組む考えのようです。

去る6月5日、来年度日本で開催されるサミットは、三重県伊勢志摩地方で開催されることが安倍首相から発表されました。この伊勢志摩には、日本の神社の取りまとめを行う伊勢神宮があります。そして、その伊勢神宮と越谷総鎮守、久伊豆神社とのつながりは、近年では前々回の式年遷宮の際に第3鳥居を賜ったことなど、とりわけ深いものがあり、この観光施策の取り組みについては、スケールの違いはあるものの、ぜひとも越谷市でもあやかりたいと思うものです。

越谷市における観光施策については、東京圏の東部という地勢的な利点を生かして、東京都東部や埼玉県から栃木県までの東武スカイツリーライン沿線、東京圏北部の住宅地を結ぶJR武蔵野線沿線など、約1,000万人を対象とした日帰り観光地として、越谷自身の地域資源の魅力を高め、地元産業の振興に結びつけていく必要があると考えます。その点越谷市における観光振興については、平成26年度に観光協会を設立し、今年度から観光課を設置するなど、順次計画的に体制が整備されるとともに、観光イチゴ農園、こしがや田んぼアート、越谷サイクルマップの作成など、越谷レイクタウンに來訪する年間5,000万人とも言われる利用者を市内のさまざまな観光資源に取り込み、市内産業の活性化に向けて取り組んできているところであり、大いに評価するところです。

そこで、今後観光という視点からさまざまな取り組みが進められると考えるわけです。越谷市にはさまざまな観光資源や観光事業としての取り組みがある中で、これらを体系的、効果的に育成し、産業振興に結びつけていくために取り組んでいくべきと考えます。また、体系的に施策を展開していく上では、象徴的な取り組みが必要と考えます。まさに地方自治体における観光振興は、政府が旗を振って進める地方創生の総合戦略の重要な部分ではないでしょうか。

越谷選出の黄川田仁志衆議院議員は、去る4月24日に衆議院本会議代表質問で石破茂地方創生担当大臣に代表質問しました。その質問は、各地方で地方人口ビジョン及び地方総合戦略の作成が始まる中、地方の多様性を生かした地方創生の目指す姿について伺うもので、石破大臣の答弁は、「東京圏もその実情は一様でなく、地方創生の実現のためには国が地方を変えるのではなく、地方みずからがその実態に応じた処方箋を示し、実行することで、地方みずから変わっていくことが重要です。国も意欲と熱意のある地方公共団体に情報支援、人的支援、財政支援を実施しています。各地方公共団体では、住民の産、官、学等の参画を得つつ、地方議会で十分にご議論をいただき、地方における創意工夫を結集していただきたいです」と述べています。

観光振興がこの地方創生総合戦略の全てを占めるわけではありませんが、越谷においては今後の都市戦略の重要な部分を占めると考えます。ついては、越谷市における観光振興に関するこれまでの取り組みと今後の方向について市長に伺います。以上で1回目の質問を終わりにいたします。

○橋詰昌児議長 ただいまの質問に対し、市長、教育長、消防長の答弁を求めます。
〔高橋 努市長登壇〕

◎高橋努市長 おはようございます。引き続きご苦労さまでございます。それでは、ただいまの大野議員さんのご質問に順次お答えいたします。

まず、越谷市における自転車対策についてのお尋ねでございますが。越谷駅東口における駐輪対策については、自転車などの放置による環境悪化の防止や歩行者などの通行の安全確保を図るため、「越谷市自転車等の駐車秩序に関する条例」に基づき、市内各駅の指定区域を放置自転車等整理区域と定め、放置される自転車などに対して事前予告を行った上で保管場所へ撤去、移送を行っております。

越谷駅東口ツインシティ前におきましては、歩道や店舗前に買い物客などによる自転車が放置されている状況が見受けられますので、株式会社越谷ツインシティに対して、建物地下の駐輪場に誘導するよう案内板の設置や誘導整理員の配置、利便性のある駐輪施設の整備等の対応策を要望してまいりました。市といたしましても、店舗前の公道上に駐輪している自転車に対し自転車等誘導員を配置し、点字ブロックなどの通行の安全を確保するとともに、立て看板など条例に基づく撤去の告

知、保管場所並びに放置自転車があることで通行する方が危険である旨の表示をし、さらには広報紙による啓発や案内チラシの配布などをするなど、放置自転車対策を講じているところでございます。

こうした中、今般株式会社越谷ツインシティより、利便性のある効果的な駐輪対策としてツインシティの敷地内に駐輪ラックを約130台設置する旨の意向が示されました。具体的な時期につきましては、今月末までの設置を目指し、現在準備を進めているところと伺っております。

一方、越谷駅周辺には駐輪場が整備されており、利用率は約6割と、まだまだあきがある状態となっております。こうした状況を踏まえ、放置自転車対策に効果的な今回の駐輪ラック設置に合わせて、本条例に基づく適切な対応を図ることにより、状況の改善が図られていくものと考えております。今後も引き続き自転車利用者に対し、公共空間利用のモラルとマナーを高めるための啓発に努めるとともに、事業者等と連携協力を図り、放置自転車の抑制に努めてまいりますので、ご理解賜りたいと存じます。

次に、地域医療についての順天堂大学医学部附属病院が浦和美園駅周辺に開設されるに伴う越谷市及び市立病院への影響についてのお尋ねでございますが。埼玉県では、地域医療に必要な救急、周産期医療などの喫緊の医療課題への対応と医師の確保や育成を図るため、昨年9月に第6次埼玉県地域保健医療計画を変更し、基準病床数の改定を行い、今年1月に新たに病院の整備計画を公募して、本年3月に順天堂大学医学部附属病院をさいたま市に整備する計画を決定したと伺っております。この整備計画では、埼玉高速鉄道浦和美園駅周辺のさいたま市に一般病棟800床の大学病院のほか、医学系大学院と看護学部を併設し、平成32年度の完成を目指し、整備を進める計画と伺っております。計画されている医療機関が本市の近隣に整備されることは望ましいことと思っておりますが、一方で県東部地域における医療スタッフの確保に影響が出ないか懸念もあるところでございます。

そこで埼玉県地域保健医療計画の変更案に対して、新たな病院整備については、地域医療を担っている病院の医師、看護師等の医療スタッフの確保に支障を生じさせることなく、安定的に確保する方策をとった上で実施するよう要望する旨の意見書を提出しており、市立病院への影響については、ないものと考えておりますが、今後も埼玉県の動向を注視し、関係機関とも調整を進めてまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

次に、観光振興について、これまでの取り組みと今後の方向についてのお尋ねでございますが。本市における観光振興につきましては、第4次総合振興計画前期基本計画において、にぎわいと活力を創出する商業、観光の振興を施策の一つとして掲げ、既存の観光資源や観光ルートを基盤としつつ、他業種やイベントとの連携による新たな観光資源を創出するとし、推進してまいりました。また、本年4月1日に観光経済部産業支援課から、観光振興に関する事務を分課独立させ、観光課を新

設し、平成25年に一般社団法人となった越谷市観光協会と相互の組織体制の強化を図り、さらなる観光事業の充実に取り組んでおります。市内には、5本の1級河川や葛西用水など、水郷こしがやを象徴する豊かな水辺空間、旧日光街道沿いの歴史的建築物や伝統的地場産業などの魅力ある観光資源が数多く存在しており、さらにはイチゴ観光農園、農産物直売所やこしがやブランド認定品など、新たな観光資源の創出に取り組んでまいりました。また、観光イベントといたしましては、越谷市民まつり、北越谷桜まつり、越谷花火大会、田んぼアート事業、南越谷阿波踊りなどがあり、いずれの事業も市内外から多くの方々を訪れ、にぎわいを見せております。

さらに、越谷レイクタウンは、広大な親水空間という魅力ある資源を最大限に活用できるという利点を保有しているとともに、日本最大級の規模と集客力を誇る大型ショッピングモールがあり、交流人口を観光資源という視点から捉えた場合、本市の大きなアドバンテージとなります。2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを契機に、多くの外国人観光客の訪日が見込まれております。特に本市は開催地である東京からのアクセスもよく、自然、歴史、伝統文化や食を通じた体験型観光メニューを初め日本庭園花田苑、さらには日本文化伝承の館こしがや能楽堂など、外国人の嗜好に合った観光資源が多く存在しており、外国人を対象としたインバウンド観光には、大きな可能性があると考えております。観光振興は、地域内の幅広い産業、経済効果をもたらすと同時に、多くの雇用を生み出すことが期待できる成長分野であり、にぎわいを創出する重要な施策と考えております。

○橋詰昌児議長 次に、教育長。

〔吉田 茂教育長登壇〕

◎吉田茂教育長 それでは、ただいまの大野議員さんのご質問にお答えをいたします。

誇りを持てるまち越谷を築くことについてのお尋ねでございますが。小中学校の運動会・体育祭における越谷らしさの表現につきましては、平成27年度の運動会及び体育祭における日本のさまざまな伝統芸能を取り入れたプログラムとしては、小学校では学年によっても異なりますが、ロックソーランやよさこいソーランが最も多く、26校で実施されております。続いて花笠音頭が7校で、エイサーが3校で実施されております。小学校学習指導要領解説体育編には、それぞれの地域で親しまれている踊りや日本の代表的な民謡の中から軽快なリズムの踊りや力強い動きなど、特徴が異なる踊りや簡単な動きで構成されている踊りの例として、ソーラン節やエイサー等が具体的に示されており、多くの学校で表現運動系の学習教材として取り上げられております。

中学校では、例年8月に南越谷で行われる阿波踊りを体育祭の新プログラムとして計画している学校が1校ございます。また、越谷らしさをあらかずプログラムの実施例として、越谷町合併3周年を記念して昭和33年に創作された越谷音頭を全校

的に取り組んでいる学校が8校、また学年の表現運動としてソーラン節と組み合わせて行う学校が1校ございます。さらに、増林地区や蒲生地区では、地域で創作されている踊りを取り入れている小学校もございます。

学習指導要領では、運動会や体育祭などの体育的行事について、学校の特色や伝統を生かすことが大切であること、日ごろの学習の成果を学校内外に公開し、発表することによって、学校に対する家庭や地域社会の理解と協力を促進することなどが示されております。このことを踏まえて、運動会や体育祭を平素の学習活動を発表する場として捉え、公開、発表する種目につきましては、児童生徒、保護者や地域等の実態を考慮しながら各学校で創意工夫し、決定しております。平素の教育活動の中で越谷市についての学習を行い、その内容を踏まえた一つの成果として運動会等で取り上げ、実施することは、越谷市民としての誇りを持てる手だての一つであると認識しております。

いずれにいたしましても教育委員会としましては、越谷音頭の実施も含め、越谷らしさを表現する取り組み例を校長会等で紹介するなど、誇りを持てるまち越谷の一員としての自覚が培われるよう取り組んでまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

○橋詰昌児議長 次に、消防長。
〔百木孝司消防長登壇〕

◎百木孝司消防長 それでは、ただいまの大野議員さんのご質問にお答えをいたします。

越谷駅東口における駐輪対策についてのお尋ねでございますが、株式会社越谷ツインシティと消防本部との協議の経緯につきましては、越谷ツインシティの建設計画時に「越谷市まちの整備に関する条例」に基づき、当時の越谷駅東口市街地再開発組合から消防水利施設等協議書の提出があり、協議の結果、防火水槽及び採水口を設置するとともに、消防活動空地を確保していただきました。防火水槽及び採水口につきましては、防火水槽を地下に設置し、採水口から消防ポンプ自動車給水して消火活動を行うための設備であり、また消防活動空地につきましては、はしごつき消防自動車が活動するため、幅6メートル、長さ12メートルの空地を確保するもので、4階建て以上の建物が対象となっております。本年になりまして、株式会社越谷ツインシティから、Aシティ周辺に自転車が放置されている状況を解消するため、Aシティの西側に駐輪ラックを設置することについてのご相談がありました。消防本部といたしましては、越谷ツインシティの建設計画時の協議内容と消防活動空地等及びこれに至る進入路については、駐輪ラックを設置できない旨のご説明をしておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

○橋詰昌児議長 続けての質問はありませんか。(10番 大野保司議員「はい」と言う)

10番 大野議員。

◆10番(大野保司議員) 皆様前向きな答弁ありがとうございました。元気を出して、午前中なので、再質問させていただきたいと思いますが、まず駐輪対策でございいます。

市長のご答弁によりますと、越谷駅東口の駐輪利用率6割程度であって、そちらのほうをまだ余った4割を活用していくことで対応していきたいと、こういうような趣旨のご答弁かなと思ったわけですが、私も私なりに駐輪の状況、ここ1週間も確認してきたのですが、例えば6月10日の9時45分、これAシティの敷地内には114台、その外回りには104台、Bシティのところには34台、合わせて252台、これは午前中の早い時期、252台ということでした。

それから、この間の金曜日、6月12日、これ夕方6時、そこで見ると、Aシティの敷地内には90台、その外側にはお買い物時間ということもあって、150台、Bシティのところには内外合わせて60台、合わせて250台。いずれも朝と夕というまだこれから自転車が動くなという時間帯では250台前後です。その後お昼とか買い物時間のピークになりますと、先ほど話したとおり300台から400台はあるのではないかと。また、この時期はちょうどそのラックを設置するというので、敷地内のところ、制限区域をしっかりと設けていました。また、それから消防の活動空地についても、ご指導があったことも踏まえて、これもとめないようにという指摘があったので、なかなかとめられない状況もあったと、そういうことでも250台あってピークにはやはり300台から400台あるのかなというのを改めて感じた次第です。

その駐輪利用率6割の中で、実はツインシティのA棟の地下には、地下駐輪場というのがあって、これは当初の計画で1,300台設置されるようにできているということなのですね。その6割のおおむねは、多分そこだと思っておりますけれども、2段式になっていまして、1段目のほうは、実はおおむね埋まっているのです。埋まっている人はどういう人が使っているのかなと見たのですけれども、高校生が多い。つまり通学とか通勤で1日利用される方が東武のプロパティのところとか、駅指定の駅の線路下の駐輪所とかは高いので、それよりも1,000円ぐらい安くなっていますから、そちらのほうを使っているということで、2段式の下の方はおおむね埋まっているという状況であります。

だから、その6割の中身のうちの半分の、多分1,300の半分ですから600台ぐらいは、その2段目の上のほうがあいているのではないかなと思っております。これを上下に下げて使うというのは結構大変だなというふうに私は思っております、人の流れを見るとその定時的な利用というよりも、一時的なカスミの前の買い物利用、それからB棟の例えば図書室とか、パスポートセンター、市民活動支援センターなんかを使われる方がやはり多いのではないかなというふうに思うわけです。そういう

ことから、なかなか今言われている130台程度では、引き続き問題の解決には遠いかなと思いますし、その利用率を上げて地下のほう2段式を使ってくれと言っても、その一時的な人がもう1段目は高校生等元気な人が使ってしまって、お買い物に来たおじちゃん、おばちゃんが、2段目のところにこうやってよいしょと言って自転車を上げるってなかなか考えがたいと思います。そういうことで、その利用率を上げていくという取り組みが余り実態に合っていないような気がしますが、今後のことだとは思いますが、どのように具体的に問題を解決していこうとしているのか。その4割を高めるやり方、具体的にありましたらお考えを教えてください。

○橋詰昌児議長 市長の答弁を求めます。

◎高橋努市長 ただいまのご質問につきましては、協働安全部長から答弁申し上げます。

○橋詰昌児議長 協働安全部長。

◎荒井隆之協働安全部長 それでは、お答えいたします。

自転車の利便性につきましては、誰でもが認めているところでございます。その利用に関しましては、法規遵守はもちろんのこと、利用上のモラル、マナーを守ることが重要であります。ご案内のとおり、ツインシティの駐輪場につきましては、約1,300台地下に設置されておりますが、利用率が低いと伺っております。今回対策として1階店舗周辺に駐輪ラックが設置されますが、駐輪ラックであれば入り口から近いこと、また地下の駐輪場であれば屋根があると、それぞれの長所がありますので、目的別に利用していただき、適切に利用を促すことも必要であると考えます。

また、越谷駅周辺には、先ほどツインシティ駐輪場のみのお話のように進められておりますけれども、東口全体に利用率の低い駐輪場もございます。これらをさらに利用率を高めていく必要があると考えます。また、最近では民有地を利用して小規模な機械式の駐輪場も幾つか建設されております。いずれにいたしましても、自転車の放置による環境悪化の防止並びに通行機能の確保及び歩行者の安全保持を図るよう、引き続き事業者等と連携協力を図りまして、駐輪場への誘導等を積極的に行うとともに、公道への駐輪に対しましては、条例に基づく警告や撤去など放置自転車抑止のための対策に努めてまいりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

○橋詰昌児議長 続けての質問はありますか。(10番 大野保司議員「はい」と言う)

10番 大野議員。

◆10番(大野保司議員) 今の話だと、ツインシティの1,300台のうち、今は半分ぐらいまだ残っているところは使ってもらうように指導していくということと、そ

れ以外のところ、多分鉄道高架下とか、そういったところとか、個人のチャリパークというのですかね、自転車パークみたいなもので1時間100円とかいうようなものの利用を進めていきたいということだったのですが、一方で越谷の東口というのにはぎわいを求めると、中心市街地活性化というようなことでいろいろイベントもされていまして、そういうときには皆さん大挙して自転車で遠方から駆けつけてしまうわけですね。今もう一歩その130台設置されるところの細かい図面、消防さんに伺って、私も見せてもらったのですが、日常出入りに使われるカスミストアの目の前が運の悪いことに消防公開空地になっていまして、一番人の出入りをするとところが自転車とめられないわけですね。ラックも設置できない。そういうところで、その入れないといった目の前に、またまた100台から200台の自転車が引き続きお買い物利用ということで、1時間、2時間だからということでどんどんとまっていってしまうような気がするのですが、そこへの対策。先ほど警告という話がありましたが、どのようにやられていくのか。単純にやっていってしまうと、これは市は条例を持っているからかもしれないかもしれませんが、市民の方からすると、1時間カスミにただで自転車、何か遠くのほうまで持っていかれてしまったというと、これは非常に不便を感じるのではないかなと思うのですけれども、そのあたりにつきまして再度ご答弁をお願いします。

○橋詰昌児議長 市長の答弁を求めます。

◎高橋努市長 お答えいたします。

市民の皆さんのいわゆる自転車利用者の気持ちもわからないわけではありませんけれども、とめてはいけないところにとめているということについては、やっぱり認識を新たにさせていただきませんか、これはもう今始まった話ではありませんで、特に通勤自転車の対策等でもさんざん前から議論されてまいりました。そういう中で、駐輪場が絶対的に足りないということで、取り締まりだけでいいのかというような議論もさんざんありまして、官民あわせて駐輪場を設置していただいて、そのかわりもちろん有料になるわけです。有料になるのだけれども、利用者のマナーとして、やはりそういう有料ではあってもぜひ活用していただきたいということで、できる限り利用者の皆さんにご理解をいただきたいと思っております。そういう中で、高架下の駐輪場等についても、確かに有料でありますけれども、まだスペースがあると、借りようと思えば借りられるようなところがあるわけですから、ぜひお借りいただいて、とめてはいけないところにはとめてくれないようお願いしたいと思っております。

○橋詰昌児議長 続けての質問はありませんか。(10番 大野保司議員「はい」と言う)

10番 大野議員。

◆10番(大野保司議員) なかなか道のりはどうなのかというのは、まだまだ注目していきたいと思っておりますが、ぜひ本来定時的にお仕事に行くのに、お金を

払って駐輪場にとめなければいけない人たちが無料でとめているのではないかと、こういう疑いも随分あるのではないかという声も聞いております。その部分は、確かに今市長の言ったように、きちんと排除していただきたいと思うのです。そのためには、やっぱり警告なんかをしていただいて、1時間、2時間の利用のものはオーケーなのだけれども、それ以外のものはだめだよというようなことだと思えますので、その辺はしっかりやっていただきたいと思うのですが、一方でやっぱりお買い物、カスミに来たおじいちゃん、おばあちゃん、子供たち、こういう人たちがカスミに寄って、しまむらに寄って、ついでにパスポートもつくって、1時間30分かかったら自転車がなかったと、こういうことでは、これもまずいことだと思うのです。そういうことも含めて、ぜひともその対策を打つ上ではその内容と、それから自転車をとめられる方は、曜日と時間帯によっても大分違うので、そういうところの裏づけもしっかりとれるように、また1年後か2年後、私も細かく聞いてみたいと思っておりますので、その点しっかりしたデータを持った対策をしていただければ幸いです。次に参りたいと思います。

地域医療の件でございますが、もちろん全体としては浦和美園に800床の病院ができるわけですから、近隣の越谷市としてもこれがうまく使えれば地域医療の改善に資するとは思いますが、さわさりながら越谷市の基幹病院、市立病院の機能が低下してしまうということでは、やはりいけないと思うわけです。市立病院には一般会計から毎年11億円という支出をして、今の赤字問題を解消してきたという経緯もあるわけで、大事にしていきたいと私も思うわけですが、やはりそういう意味から順天堂さんの動きについては、報告や説明があつて当然ではないかなというふうに思うわけです。

それから、そのせんげん台にある順天堂越谷病院も200床の増床が29年度中には実現するという計画だったと思いますが、同じ順天堂が市立病院にもあつて、せんげん台にもあつて、浦和美園にもあるということでございますので、これもちょっと不安を感じる要素なのです。29年度に実現するというのであれば、当然もう建築確認申請なんかは出ているのではないかなと思うのですが、そういった動きはあるのでしょうか、教えてください。

○橋詰昌児議長 市長の答弁を求めます。

◎高橋努市長 ただいまのご質問につきましては、保健医療部長から答弁申し上げます。

○橋詰昌児議長 保健医療部長。

◎大武孝夫保健医療部長 それでは、ただいまのご質問にお答えいたします。

順天堂大学医学部附属順天堂越谷病院につきましても、獨協医科大学越谷病院と同様に、平成25年から29年の5年間の埼玉県の第6次地域保健医療計画の中で増床

を認められたものでございます。どちらも200床ずつということですが、順天堂越谷病院につきましては、精神疾患を有する方への対応ですとか、高度専門医療、そういったものを対応ということで200床の増床を認められたというふうに伺っているところでございます。具体的にどういったスケジュールでこういったものが現在進められているとか、そういったこと、その内容につきましては、残念ながら現在のところ私どものほうは伺ってはいないというような状況でございます。以上でございます。

○橋詰昌児議長 続けての質問はありませんか。（10番 大野保司議員「はい」と言う）

10番 大野議員。

◆10番（大野保司議員） 建築確認申請というものの提出先は越谷市だと思うのですが、今のご答弁ですと、まだ2年後の建設予定だけれども、建築確認申請、つまり具体的な病院の増改築の予定というものは出てきていないということでよろしいのでしょうか。

○橋詰昌児議長 市長の答弁を求めます。

◎高橋努市長 ただいまのご質問につきましても、保健医療部長から答弁申し上げます。

○橋詰昌児議長 保健医療部長。

◎大武孝夫保健医療部長 現在こういった形で、先ほどご答弁申し上げましたように、その内容についても把握はしていないという状況でございます。

○橋詰昌児議長 続けての質問はありませんか。（10番 大野保司議員「はい」と言う）

10番 大野議員。

◆10番（大野保司議員） やはり重要な基幹病院というかね、また医療スタッフの確保というのが、さらに箱をつくっても動かなければいけないということで、ぜひともその動きというのをしっかり把握しまして、これまでの長年の経緯があるわけですから、協力体制というのを築いていただきたいなど。通常やっぱり民間の動きでは、大きなものをつくれば効率化の観点から合併するなり、吸収するなりというのが民間としては基本でございますので、せっかくせんげん台にある順天堂越谷病院、200床とはいつてみたものの、浦和美園に800あるからどうかなという話になってしまうと、越谷市民にとっては非常にマイナスだと思いますので、聞いていないということではなくて、しっかり情報をとっていただければなと思います。

では、次に参ります。小中学校の運動会・体育祭における越谷らしさの表現ということで、学習指導要領にもありますが、さらに越谷としては越谷らしさを示す取り組みをしっかりと進めていきたいということで教育長から非常に前向きな答弁をいただいたと、こういうふう認識しているわけですが、今のお話を整理すると、越谷市内の小中学校ではよさこいソーランが26校、花笠につきましては7校、それからエイサーが3校、そのほか越谷のほうの越谷音頭につきましては8校で取り入れて、さらに部分的ではあるけれども、12校プラス1校で取り組んでいると。それから、増林ともう一つの地区、ちょっと聞き漏らしましたが、2つの地域では、さらにその地域の音頭というのですかね、そういうものも取り入れているというふうなお話だったと思います。

一方で日本3大阿波踊りといいながら、その阿波踊りということについては、全然まだまだ取り組んでいないのかなということだと思っておりますが、何か1校だけ検討されているというふうなお話がありました、その阿波踊りの取り組みの状況はどうでしょうか。

○橋詰昌児議長 教育長の答弁を求めます。

◎吉田茂教育長 ただいまのご質問につきましては、学校教育部長よりお答えをいたします。

○橋詰昌児議長 学校教育部長。

◎野口久男学校教育部長 それでは、お答えをいたします。

阿波踊りに対する取り組みということでございますけれども、今年度1つの中学校で表現運動の一つとして阿波踊りをこれから今取り組んでいるという状況でございます。学校のほうの総意で取り組んでやっているものというふうに認識しているところでございます。以上でございます。

○橋詰昌児議長 続けての質問はありませんか。（10番 大野保司議員「はい」と言う）

10番 大野議員。

◆10番（大野保司議員） 日本3大阿波踊りということで、昨年で30回ですかね、人出も昨年のホームページで60万人、ことしのホームページ見たら70万人と出ていて、1年間で10万人ふえてしまったのかなと思うのですが、そういうようなことで重要な市としては観光資源でもあるので、やはり阿波踊りの行われる地域での地元への定着というのが30年たっても、今の話を聞くと図られていないのかなと思うのです。そういうことではなく、やっぱり地元でできたものを愛していただけのような展開にぜひ結びつけていただきたいと思いますというのが1つでございます。

もう一つは、やはり越谷音頭が今のお話だとおおむね20校程度取り組まれているということですが、その学校の表現で進めていく割には、よさこいの26に対すると、まだまだ弱い。本来越谷市に住んでいるわけで、やはりあの歌詞を聞くと、非常に越谷の特徴を端的に示したすばらしい音頭だなと思うのです。そういうものがなかなか広がらないこの原因というのですかね、状況、それは各校の判断とあるのですけれども、その運動会とか体育祭との親和性というのですかね、そういう点では若干問題があるところもあるのかなとも思うわけですが、ありていにその越谷音頭、どのように取り扱っていくべきなのか、お考えを聞かせてください。

○橋詰昌児議長 教育長の答弁を求めます。

◎吉田茂教育長 ただいまのご質問につきましても、学校教育部長よりお答えをいたします。

○橋詰昌児議長 学校教育部長。

◎野口久男学校教育部長 それでは、お答えをいたします。

越谷音頭につきましては、全校的に取り組んでいるところが8校、また学年の表現運動としてソーラン節と組み合わせて行う学校が1校でございます。越谷音頭につきましては、ほとんどの学校で例えば昼休み前のアトラクショナルに地域の方あるいは保護者の方を巻き込んだ形で交流活動の一環という捉え方をしながら取り組んでいるものでございまして、表現運動としましては若干運動量的には各学年で表現運動として取り組むには少ないという特徴があるかなと思いますので、地域の実情に応じてそれぞれ取り組んでいて、伝統となっている学校もあるようでございますので、校長会等ではそういった取り組みをしている学校につきましては、これからまた紹介していきながら、少しでも広がっていけばいいかなというふうにご考えているところでございますけれども、ただ運動会のプログラム内容につきましては、それぞれの学校の伝統等もございまして、学校からの学校そういった取り組みを支援するという立場でいきたいというふうにご考えておりますので、ご理解をいただければと思います。以上でございます。

○橋詰昌児議長 続けての質問はありませんか。（10番 大野保司議員「はい」と言う）

10番 大野議員。

◆10番（大野保司議員） 今おっしゃられたとおり、越谷音頭のよさはよくわかるけれども、運動会で運動量という点では若干問題があるということだと思います。昼休みのイベントとして老若男女、地域から参加された方が参加するには非常にアトラクショナルにはいいということで、実際はその夏まつりのときに子供たちがそういう機会を通じて学んだことを生かして踊っているかということ、まだまだ少ないのかなとは思いますが、そういうつながりに持っていければ、さらにい

いのではないかなと。ことしの夏まつりも注目して、私も見ていきたいと思っております。

その一方で、その運動量が足りないということですが、運動ということ、ダンスということであると、例えばですよ。越谷出身のダンスミュージシャンというと、やっぱり日本一のアツシさんがいるエグザイルなんていうのがあるわけですし、やはり越谷も中核市になった以上、トップレベルを目指すということで、それがいいとは思いませんが、変なものをつくって後でみんなが使わないということではないですけれども、そういう越谷固有のものをやっぱり基本に置いた上で、ほかの地域はいいのですけれども、それがなくなるとその話ばかりというのは、ちょっと寂しい気がしますので、その越谷固有の運動系の表現ということにつきまして、今後取り組んでいくお考えがあるのかお聞かせください。

○橋詰昌児議長 教育長の答弁を求めます。

いずれにしても、越谷らしさ、そして誇りを持たせるということについては、運動会や体育祭のそういう場だけではなくて、いろんな形でやらせていただいているところもございます。一例を挙げますと、例えば教育委員会では教育振興基本計画に基づいて、小学校のクラブ活動や中学校のクラブ活動にそれぞれ指導者を派遣しており、茶道とか華道あるいは箏曲のいずれかについては、全中学校の部活動であるいは木遣り、お囃し、神楽、獅子舞、能などについては、小学校のクラブ活動で取り組んでおり、またこうした取り組みの発表会が日本文化伝承の集いとして能楽堂花田苑にて毎年開催しております。さらに、市内の全小学校の6年生を対象に本格的な能舞台を鑑賞する、さらには能を肌で感じてもらうという場として、こども能楽劇場、これも開催しております。

こうした取り組みとあわせて、運動会についても考えていきたいあるいは大野議員さんご指摘のあった件についても取り組んでいきたいというふうに考えておりますので、ご理解賜りたいと思います。

○橋詰昌児議長 続けての質問はありませんか。（10番 大野保司議員「はい」と言う）

10番 大野議員。

◆10番（大野保司議員） ありがとうございます。

次に、観光振興について伺いたいと思うのですけれども、いろいろ再質問をしようと思うと切りがないわけではございますが、端的に。予定していた話もあるのですが、JTBの包括協定の話が、一応ご紹介があったのですけれども、その越谷市、何か旅行というとうも越谷市民だと外に行く話ばかりで、中に旅行者が来てくれるのかという、本当に大丈夫なのというふうにも思ったりするわけで、その包括協定を結ぶと、どんないいことがあるのか。最初の答弁で3つの柱というような

ことでご説明があったのですが、もう一度そこも確認させていただきたいと思いません。

○橋詰昌児議長 市長の答弁を求めます。

◎高橋努市長 ただいまのご質問につきましては、環境経済部長から答弁申し上げます。

○橋詰昌児議長 環境経済部長。

◎長柄幸聖環境経済部長 お答えいたします。

JTB関東さんと包括協定を結ぶと何がいいことあるのですかというようなお話、メリットということだと思いますが、ご案内のとおり株式会社JTB関東さんというのは、答弁の中でも申し上げましたけれども、国内最大手の旅行会社で、これは旅行ですとか観光、これまで日本の国がやってきた旅行だとか観光に関するこれ相当多くの、また質の高い多様な情報を持っているという企業だというふうに思っております。越谷みたいに首都東京近郊にありながら、京都ですとか奈良とか違って、大きな歴史的な呼び込み資源みたいなものが非常にないとは申しませんが、少し少ないようなところに、このような最大大手さんのいろいろな観光に対するノウハウですとか、そういうのをご教授いただいたり、または情報を提供していただいたり、また越谷市の観光がこれからどのような方向性で行くのかというようなことの情報交換などをさせていただくということが最大のメリットであると思っております。ですから、包括協定を結んだから観光客がいきなり50万、80万、100万ふえるというようなことではなくて、これからのありようみたいなものをこちらの株式会社さんと協議または調整、または勉強会などをともにしてまいりたいというふうに考えております。以上でございます。

○橋詰昌児議長 続けての質問はありませんか。（10番 大野保司議員「はい」と言う）

10番 大野議員。

◆10番（大野保司議員） まさにこれからの観光施策をつくっていく上で基幹的な協定になるというようなことを期待申し上げたいわけですが、ではそういったことで、具体的に例えば越谷の取り組みならどうなのということではいろいろあるわけですが、1つだけちょっと聞いてみたいのですけれども、ことし11月15日にさいたま市国際マラソンというのが開催されるということですが、これ通過ルートを見ると、実は浦和のほうを出発するのですけれども、国道463号を通じまして埼玉スタジアムから荻島、出羽のあたりまでルートになって入ってくるわけです。そういうことでいうと、越谷を売り込むという観光の観点から、ぜひとも越谷市もこれをうまく活用すべきでないかと思うのですけれども、市長はどのようにお考えなのか、お聞かせください。

○橋詰昌児議長 市長の答弁を求めます。

◎高橋努市長 ただいまのご質問につきましても、環境経済部長から答弁申し上げます。

○橋詰昌児議長 環境経済部長。

◎長柄幸聖環境経済部長 お答え申し上げます。

議員さんおっしゃったように、本年11月15日、これ日曜ということですが、こちらのほうで開催される第1回さいたま国際マラソンということで新聞等で報道がございました。市内にある国道463号線、こちらがコースの一部となっておりますということで、特に25キロメートル過ぎの神明町の交差点付近、こちらが折り返し地点になるということで情報が出ております。折り返し地点になりますと、また25キロというところが非常にレースも佳境に入ってくるようなところでもございますし、こちらに多くの観戦者の方がいたり、また越谷市のPRなり、旗を振るなりなんなりいろいろな応援のスタイルがあるかと思いますが、こういったことが展開されれば大会自体も盛り上がると思えますし、越谷市の大きなPRというふうになると思えます。

また、折り返し地点ですから、一般的にはテレビの中継ですとか、そういったもので絵が抜かれるということもあるでしょうし、こういったことは非常に越谷市をPRする、観光だけでなくシティプロモーションという立場でも非常にPRする大きな機会となると思えます。したがって、今現在では庁内関係課というところでアイデアを募集したり、どんなことをするのか、どんなPRをするのかアイデアを募集したりしているところでございますので、これは市役所だけではなくて沿道住民の方ですとか、いろいろな方とのコラボレーションというか、協働も必要になると思えますが、今はそのようなところで検討しているという段階でございます。以上でございます。

○橋詰昌児議長 続けての質問はありませんか。（10番 大野保司議員「はい」と言う）

10番 大野議員。

◆10番（大野保司議員） いや、本当でしたら中核市越谷となったわけですから、越谷市国際マラソンだともっとよかったわけですがけれども、せっかくお隣でつくっていただきまして、越谷市もやってくるということですので、東京国際マラソンなんか沿道沿道でご当地のイベントを展開して、テレビの中でうまく中継の中に乗せていくというふうな手法もあるようですので、うまく使っていただければ思っております。そういった観光資源、観光イベントを越谷も先ほどご答弁にあったように、いろいろいっぱいあるわけですがけれども、どうも聞いてみると観光課には4名の職員ということですし、観光協会も10人に満たない程度の組織でやっているわ

けで、何から何までそこが全てやるということは考えがたいと思うのです。しかしながら、その観光資源はたくさんあるし、目の出し方によっては外から日本、関東に住んでいる人だけではなくて、きょうのご答弁ですとインバウンド観光というような言葉で、外国人の方ももっと越谷に来てくれるのではないかみたいなお話もあったわけでして、そういうようなことを体系的、効果的に進めていくためには、越谷市観光計画みたいなものをつくってうまくコントロールしていかないと、何でもかんでもそこに観光課に押しつけければいいのだというようなことにはならないと思いますので、そのあたりを私は観光振興計画という形で策定すべきだと思いますが、市長のお考えを伺います。

○橋詰昌児議長 市長の答弁を求めます。

◎高橋努市長 ただいまのご質問につきましても、環境経済部長から答弁申し上げます。

○橋詰昌児議長 環境経済部長。

◎長柄幸聖環境経済部長 答えいたします。

議員さんご指摘のとおり、観光に関する計画というのは、市長答弁の中でも触れさせていただきましたが、基本には総合振興計画の中での位置づけ、さらには産業振興ビジョンという計画があるのですけれども、そちらの中でも観光については触れさせていただいていますが、そのような基幹的な計画の中での位置づけはあるものの、具体的な部分計画みたいなものが今ございません。余り計画立ててそれに縛られてしまうような計画では困ってしまうのですが、そういったこともありまして、先ほど市長の答弁にございましたけれども、JTB関東さんと包括協定を結ばせていただきまして、先ほども申し上げましたけれども、やはり国内最大手というところでいろいろな情報を持っているということで、今回私どもの観光の計画を立てるときにもそちらのほうと深くかかわって、いろいろな意味でアドバイスをさせていただきたいと思っていますし、またその計画をつくる前の基礎調査、調査業務みたいなものも連携をとって、まずは調査から入ろうと。その後しっかりした調査ができれば、それを計画というふうな形の冊子にまとめるのが、しっかりした基礎ができればそう難しいことではありませんので、その辺のところをJTBさんのほうと包括連携協定の中でつくっていきいたいというふうには思っております。

さらに、それをつくり上げる段階で市民の皆様のお声を聞くということも当然させていただきますが、せっかく観光協会さん、こちらの役員の方もいろいろ多種多分野にわたった専門家の方がこれ役員になっていらっしゃる協会でございますので、そちらの組織にも意見を求めていきたい。さらには、商工対策委員会というような組織もございますので、そちらのほうにもご意見を伺いながらつくっていきいたい。

いずれにいたしましても当面2020年オリンピック・パラリンピックまでを一定の期間と見据えて越谷市の観光のありよう、またインバウンドも含めたこれからの

観光の振興に対する基本的な考え方、具体的な行動などを位置づけられれば良いなと思っていますので、ご理解いただきたいと思います。

○橋詰昌児議長 続けての質問はありませんか。（10番 大野保司議員「はい」と言う）

10番 大野議員。

◆10番（大野保司議員） ありがとうございます。冊子にするということよりも、やはり効率的に限られた人材と予算を回して産業振興に結びつけていくということだと思いますので、それがどこでやったらいいのかと毎回1個1個議論していると、本来進めなくてはいけない本来の仕事が進まないということにもなりかねないので、ぜひ計画的に進めていただければなと思っています。そして、違う越谷で今までなかったアイデアとかも盛り込んで、まさにきのう中核市移行記念イベントあったわけですけれども、44番目の中核市ということですが、来ていたところで宮崎市の議長さんなんかということで、どこを見ても名前の通った自治体ばかりで、そこに越谷もぜひ追いつけ追い越せということで市長も気持ちを新たに頑張っているのではないかなと思っていますところでは。

そういうふうな観光振興越谷を目指すわけですが、その年間5,000万人も人を引き寄せる力が越谷市にはあると、きのうも知事が「東京ディズニーランドは3,100万人だけれども、越谷市はレイクタウンに5,000万人来るんですね」と、こうおっしゃってました。その辺の細かい数字もやがては数字の裏づけをもってしっかり語っていただけるのではないかなと思うのですけれども、さりながらこの中核市移行ということと観光振興イベントを使って人を寄せてやっていくというのは今後のやり方だと思いますので、やがて中核市市長会なんていうのも越谷でやられるのかななんて思ってしまうわけです。そうすると、越谷にそれができるような施設今あるのかと、5,000万人も人が来ながらみんな日帰りで帰ってしまっ、1泊していくようなところもないのではないかなというふうに思うのです。これだけ周りから人を引き寄せる力があるのであれば、ホテルを1つこういった市長会が中核市長会が十分開かれるようなホテルを越谷に誘致するというようなことも、今すぐではありませんが、しっかり見据えることが必要ではないかなというふうに思うのですが、そのホテルを誘致することに対する市長のお考えを伺いたいと思います。

○橋詰昌児議長 市長の答弁を求めます。

◎高橋努市長 ただいまのご質問につきましても、環境経済部長から答弁申し上げます。

○橋詰昌児議長 環境経済部長。

◎長柄幸聖環境経済部長 お答えいたします。

いろいろご説明ありましたけれども、ホテルの誘致ということだと思いますが、私どものほうも越谷にはビジネスホテルですとか、そういう小規模な宿泊施設はあるにしても、例えば200、300を越す相当数の方が宿泊できるようなホテルというのがないのは、ちょっと非常に残念だなと思います。これからだけではなくて、特に阿波踊りなど開催されますと、世界3大阿波踊りでもう30年もやっておりまして、私はよその文化よりも越谷市に根づいたようなものだというふうに思っておりますが、そのような催し物が開催される時にいろんなところにいらっしゃってなかなか泊まる場所がないというような事情もございます。

また、議員さんご質問の中にもありましたけれども、越谷市は東武スカイツリーラインとJR武蔵野線等がありまして、都内に出るのも日光に行くのもディズニーランドに行くのもいろんな上で便利だと。そういった意味ではホテルの需要というのは、私はあると思っていますのですが、私だけ思ってもなかなか、企業の方がホテルの誘致の方がこれは食いついてもらわなくてはいけませんので、したがって先ほど申し上げました越谷の地の利ですとか、越谷の総客観光の優位性またはこれからの観光の展開などもいろいろ材料にいたしまして、ホテルにつきましてはいろいろ民間さんのほうに誘致に向けて民間さんが活動していただけるような情報の提供に努めてまいりたいと思いますし、またそれ以外にもホテル誘致についての情報等がありましたら積極的に収集してまいりたいと考えておりますので、ご理解賜りたいと存じます。

○橋詰昌児議長 続けての質問はありませんか。(10番 大野保司議員「なし」と言う)

以上で大野保司議員の質問を終了いたします。